

2023 年度第 5 回研修委員会議事録

日 時：2023 年 12 月 4 日（月） 15：00 ～ 17：15

場 所：オンライン開催 (Teams)

出席者：松下裕（明治大学）、丸山雄太（大正大学）、南川真貴子（中央大学）、
渡邊幸弘（早稲田大学）、今井星香・古賀理恵子（慶應義塾大学）、
中田真美子・水本啓右（事務局・専修大学）、飯泉慎也（研究部担当理事校・専修大学）

【敬称略／順不同】

議 長：松下裕（委員長）

議 題：

1. 2023 年度研修会振り返りについて

10 月 20 日（金）に実施した研修会について、①当日までの準備、②事前リハーサル、③研修会当日、④アンケート結果の項目で振り返りを行った。前年度からのノウハウもあり、テーマ決めや講師選定などスムーズであったという意見があがった。また情報共有・オンライン作業用ツールや配信ツールが前年度と異なる場合に設定や動作確認が重要であるといった意見があがった。

2. 2024 年度研修会について

アンケート結果を参考に、2024 年度研修会について検討を行った。結果を踏まえオンライン形式で引き続き行うこととした。また、SNS の運用などの広報活動といった日々の業務に紐づいた身近なテーマを 2024 年度研修会のテーマとすることとした。例年の基調講演と事例紹介が研修会の基本的な構成となるが、詳細な調整については次期委員に一任する。具体的なテーマについては、次回の研修委員会までに Teams で意見を共有することとした。

3. 研究部組織見直しについて

研究部担当理事校から研究部組織見直しについて、資料に基づき現状の説明と新体制について提案がされた。1 月に行われる運営委員会であがった意見も踏まえて、2 月中に研修委員会として意見を提出することとした。

▶研修会の「地域開催」について

「地域研修」を開始した経緯は、運営委員会から研修委員会に実施依頼によるもので、トップダウン形式であった。そのため、今後の「地域開催」の取り扱いについても運営委員会で決定頂くのが良いという意見があった。

▶組織統合について

・統合し、人数を増やしたとしても、各委員の負担増が懸念される。あえて「運営委員会」と「研修委員会」2 つの組織に分けていたのではないかと。

→当初は「研究」と「研修」の内容で切り分けていたと考える。近年はオンラインツールを活用することで、会議開催など委員の業務負担は減っているが、一方で、委員(役員校)の成り手不足が課題にある。統合により、委員選出人数が減少する大学もあり、人材面での負担軽減となると考える。また、業務面では同じメンバーが担当することで、「講演会」と「研修会」の内容重複などを避けて

企画しやすくなることや、講演会や研修会当日などの各委員の業務分担量を軽減できると考える。

- ・研修委員会そのものではなく、東地区の運営全体が難しくなっているといことか？

→現状、次期役員校が決定していないところも多く、成り手不足となっているため、全体で協力していかなければ、今後ますます困難になると考える。

- ・提案を各大学でも検討するにあたり、統合した場合の各委員（役員）の業務内容を具体的に提示してもらうことで、人選や対応可否を判断材料としたい。

以上